

Cantique spirituel 靈的賛歌



小泉友美 KOIZUMI T



目次

ジャン バティスト ラシーヌ Jean BaptisteRacine	1
--	---

ジャン バティスト ラシーヌ Jean Baptiste Racine

この短歌は、ジャン バティスト ラシーヌ Jean Baptiste Racine (1639-1699) が、1694 年に、サン シール Saint Cyr 修道院のためにつくった作品、「Cantique spirituel 霊的賛歌」の第 1 作目「La louange de la charité 慈愛のための賛歌」から着想を得ました。このラシーヌの歌は、新約聖書内「コリントの信徒への手紙 1」13 章のキリスト教信徒共同体の生活を送る上で必要な、キリストの愛についての教えによります。

ラシーヌは、自分のキリスト教の信仰を自由に詩として創作しました。私も、新約聖書の「コリントの信徒への手紙 1-13」とラシーヌの「慈愛のための賛歌」を土台として、短歌としてアレンジしてみました。

愛ありて
ことばうまれし
愛なきて
音のみ響く
うつろなころ

御使いと
人々の言
愛ありて
至高の道を
導きたまう

音と音
やかましき鐘
響きあり
ことばなくして
愛は消えゆく

あまたなる
祈りと知識
愛なくて
無にかえるまま
益もたらさず

キリストの
教えを聞きて
愛を識る
ひとを愛して
ことばありけり

はじめから
ことば(言)はありき
神とあり
すべてのものは
いのちありけり

いのちある
パンをわかちて
使徒たちは
ことばを信じ
愛にゆだねる

この愛は
忍耐つよし
この愛は
なさけぶかくて
嫉むことなし

この愛は
礼を失せず
いらだたず
怨みいだかず
まことあるのみ

顕世に
すべてのものは
滅びゆく
主の御言

いらだたず
怨みいだかず
真実を
よろこぶままに
信じるままに

識ることと
預言と異言
すたれゆく
この愛の内
いのちあるかな

幼子の
無垢なところ
愛ありて
無邪気なまま
抱かれてゆく

幼子は
大人になりて
立ち去りし
完全なもの
愛は滅びず

顔と顔
おぼろに映る
鑑あり
合わせゆくまま
はっきりと識る

それゆえに
信仰希望
愛ありて
おいなるもの
この3つなり

燃えあがる
愛ゆえの
信仰ありて
つきることなく
その道示せ

あたらしき
掟を示す
お互いに
愛したまえ

ただひたすらに

汝

人を愛せよ

完

Cantique spirituel 霊的賛歌

著 者 小泉友美 Koizumi Tomomi

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
